

物理

浜島清利

直前期は正攻法より 効率を重視

センター試験は定性的な問いが多く、教科書の知識で対処できるのに対し、2次試験はグッと本格的な問題になってきます。論理力・応用力・計算力など総合的な実力がためられるわけです。皆さんの勉強も大づめにさしかかってきました。なんといっても、入試直前の1カ月は、今までやってきた受験生活の中で最も大切な1カ月でしょう。どう活かすかが否に直結します。

まず、戦略を立てましょう。

★基本戦略

「復習を中心に据え、赤本などで実戦訓練をする」ことです。問題集などでまだ手をつけていない問題が一杯残っているでしょうが、もう打ち切った方がよいと思います。新しい問題を1題解く時間で、復習の問題なら3題、4題と振り返れるからです。今は効率を重視すべきです。問題丸ごと解き直す必要はありません。誤った設問だけやればいいのです。それも余り長く考え込まないで、分からなければ答えを見ていってください。

「復習」は非常に効果的なのですが、ひとつ欠陥があります。それは精神的な面で、手っ取り早く言

えば、「氣勢が上がらない」ということ。何となく後ろ向きの感じがすることでしょう。そこで「赤本などでの実戦訓練」を挑戦目標としてセットすればいいのです。ボクシングと同じ。挑戦する以上は、まずトレーニング、それが復習です。一度自分なりに調整を完了して挑戦してほしいのです。1カ月の大まかなスケジュールは次のようになるでしょう。



● Tune-up I

Tune-up Iでは、参考書などで公式や重要事項の確認からスタートします。漫然と見直すのではなくて、実戦的な解法と結びつけてください。たとえば、「衝突問題なら運動量保存則と反発係数の式の連立で解く」というように。

国公立 2次試験 直前対策

そして、できれば自分なりの「まとめ」を作ってください。その「まとめ」は入試の日を持って行くことになります。次に、問題集や模試・定期試験などで間違えた所をチェックしていきます。ただし、難問にはこだわらないこと。入試で合否を決めるのは標準問題なのです。とにかく試験に臨めるだけの一応の態勢をこの期間内で整えてしまうことです。

●実戦訓練

いよいよ、実戦訓練です。2つほど注意しておきます。

時間内にいかに高得点を取るかが入試なのでから、とにかく解きやすい設問から手をつけ、時間のかかりそうなものはとりあえずスキップすることです。ごちそうを並べたバイキング料理と同じです。おいしいものからサッと手をつけていく、あの要領です。何を棄てるのかの判断も実力のうちです。

それと、最後に少なくとも5分間は余らせるようにしてください。「見直し」をする時間です。これが意外なほど得点アップにつながるのです。試験でケアレスミスに泣いたことはいちて捨てるほどあつたはず。私なら最後の5分間は新しい設問に取り組むより「見直し」に当てます。その方が得点を増す可能性が高いのです。

でも、「見直し」を短時間でやるにはそれなりの訓練が必要です。それをこの機会にやってみるのです。条件の読み落とし、指定文字違反などチェックすべきことはいろいろあります。

こうして実戦訓練をしてみると、自分の欠点がはっきりしてきます。

● Tune-up II

Tune-up IIはその補充の期間にします。余裕があれば、参考書の例題を推理小説を読むように読み直してください。例題として挙げられている以上、典型問題でもあり頻出問題でもあるはず。問題文を読み、解法の大筋を考えたら、すぐに解説を読んでみるとよいでしょう。物理の考え方に頭を慣れさせるのに最適の方法だと思います。「まとめ」も順次、改良していきます。

そんな余裕のない人も、使い慣れた参考書、問題集のページをバラバラとめくって何度も何度も重要ポイントやミスした所を見直しておくことです。

★実力に応じた工夫を

物理がかなり不得意だという人は、範囲を思い切ってしぼることです。以下、列挙してみると……力学（放物運動・エネルギー保存・運動量保存・円運動）、波動（ドップラー効果・弦と気柱の定常波・光の干渉）、電磁気（コンデンサー・直流回路・電磁誘導・電磁界中の荷電粒子の運動）、熱（定積・定圧・等温・断熱変化）。

一方、かなりの得意派は問題パターンを増やしてください。新しい問題にじっくり取り組む余裕はないでしょうから、上に述べた方法——解法の大筋を考えたらすぐに解説に入る——を新しい問題に適用するとよいでしょう。

「ハイレベルの競争は解いた問題の数で決まる」と言われているのですが、こうすれば効率的に数を増やせます。直前期には正攻法にこだわることはないので。特に、電磁気・熱の問題量が不足しがちな現役生にはお薦めです。